

「柏崎の橋」

19 ^{どうしょう}道正橋

道正橋は、鶴川地区女谷の黒姫神社の近く、宮原から下野への入口となる鶴川にかかる橋である。

この橋の名には、この地域に約500年前から伝承されてきた国の重要無形文化財「綾子舞」にまつわる次のような由来がある。

永正（1504～1520）の頃、下野道正橋の上を見馴れぬ夫婦が行ったり来たり、ひそひそと話し合い心配そうな様子であった。通りかかった新左工門がどなたかと聞くと『われら旅芸人であるが、この冬枯れ時、路銀もなく困っている』と答えたので、新左工門の家に連れてきて一夜の宿を貸し、村人に芸を教えるように頼んだ。これが綾子舞狂言を教えた茂太夫夫婦である。それ以来この橋を『どうしょう橋（どうしょう橋の誤りか）』といい、新左工門の屋号を道正という。

（柏崎市伝説集 P78,79）



昔の道正橋の上で演じられる綾子舞
（写真に見る鶴川の郷土誌（二）より）

かつてはこの道正の家に集まって綾子舞の練習をしており、座敷の棚に綾子舞の本があったというが、昭和23年4月末に火災のため屋敷と本は焼失。道正さんは他家の長屋門を移築し住んだが、綾子舞の練習場所は道正の家も含め、地域で持ち回り制になった。その後、道正さんは長岡に移住したが、橋を越え下野に入ったところに現在も道正の屋敷は残っている。

昭和40年前後（おそらく昭和30年代後半）に現在のコンクリート製の橋に架け替えられた。

旧黒姫村職員だった人によると木造の橋であった頃は何度も流され、昭和27年頃大洪水で傷んだ橋を取り壊した際、基礎部分を高くし大水の影響を受けにくいようにしたという。



現在の道正橋



道正橋の渡り初め式の様子
（大野氏所蔵写真）

●参考資料

- 「写真に見る鶴川の郷土誌（二）」（224 フセ）布施一著
- 「鶴川の話Ⅰ・Ⅱ」（224 タカ）高橋義宗著
- 「柏崎市伝説集」（388 Kキヨ）柏崎市教育委員会編
- 「史談うかわ第3号」（224 ウカ）鶴川郷土歴史研究会編
- 「鶴川そぞろ歩き」（224 ウカ）二十周年記念事業実行委員会記録部編